ISSN 0912-7402

臨時号：2026年

NEWSLETTER

～ 水を守り　湖を救う ～

公益財団法人　国際湖沼環境委員会（ILEC）
本ニュースレターには、英語版もございます。

世界湖沼の日（8月27日）　WLD: World Lake Day

2024年12月、国連総会で制定が決議された国際デー。湖沼の持続可能な利用を目指し、世界で湖沼の重要性や課題について考える日。8月27日は、1984年の第1回世界湖沼会議（滋賀県大津市）の開幕日に由来。

2回目となる今年の世界湖沼の日に、ILECは世界各地から湖沼保全の重要性について発信しました！

レポート１

世界湖沼の日2026 国際イベント　My Lake, My Story
～湖の環境・社会・経済の価値をともに創る～

8月27日（木）、イオンモール草津にて、滋賀県との共催により国際イベントを開催しました。当日は、世界の若者たちが、それぞれの地域で取り組む湖沼保全活動について発表しました。若者たちの実践やアイデアを通して、湖と地域の未来について考えるとともに、2027年にタンザニアで開催される第21回世界湖沼会議に向けた「ユース宣言」を世界に向けて発信しました。

オープニング

開会挨拶では、ILECの高橋康夫副理事長が 「湖沼を守る取組を地域で継続し、次の世代へ受け継いでいくことが大切。世界の若者が経験や思いを共有し、互いに学び合うことで、新たな協力や行動が生まれることを期待する。」と述べました。続くビデオメッセージでは、国連環境計画生態系部門長のスーザン・ガードナー氏が「湖沼は、暮らしと自然を支える大切な存在だが、世界の大きな湖沼の半数が縮小している。国や世代を超えて力を合わせ、湖と人々の未来を守っていきましょう。」と訴えました。また滋賀県の三日月大造知事は、「湖沼と人との共生を目指し、琵琶湖から世界へ、湖沼保全の輪を広げていきましょう。」と呼びかけました。

コメンテーター

①滋賀県副知事　東 勝　氏
②環境省 水・大気環境局 海域環境管理室長　西川 絢子　氏
③ILEC理事/琵琶湖環境科学研究センター長　藤井 滋穂　氏
④ILEC科学委員長　アデリナ・サントス・ボルハ　氏

小学生のグループが琵琶湖岸での調査を通してプラごみ問題を考える活動をしています。

Rキッズによるプラスチックごみ削減に向けた活動

しがローカルSDGs研究会「Rキッズ」
日本

01

湖で起こる魚の大量死を防ぐための早期警戒システムを提案しています。

KOYO SIAGA：ラヌ・クラカ湖の「酸素の鼓動」 ― 地域の知恵を活用した、ラヌ・クラカ湖（ルマジャン）における湧昇被害軽減のための早期警戒システム ―

マン・2・コタ・マラン (マラン市第2国立イスラム高等学校)
インドネシア

02

田んぼや水路、琵琶湖を一つの流域として捉え、地域の自然や生き物を調査し、WLC等で共有しています。

田んぼ・水路・琵琶湖をつなぐ流域体験学習による価値創出

TANAKAMIこども環境クラブ
日本

03

ポソ湖で、固有種の保全や環境教育、エコツーリズムを通じて、生物多様性の保全と地域の暮らしの両立を目指しています。

私たちの湖の持続可能性のために

クルニアワン・パリンドンダヤ・バンジョル
インドネシア

04

琵琶湖・沖島で、島の暮らしや伝統を守るため、祭りや古民家の整備、農業・漁業体験などに取り組んでいます。

『よそ者』の学生が『島のインフラ』になる

座・沖島
日本

05

水質や湧き水の調査、漁業体験等を通して、子どもたちの探究心と環境意識を育み、地域の魅力を伝える活動をしています。

大学生と地域の連携による子ども向け『びわ湖の研究者になろうツアー』

NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）
MLGsチーム
日本

06

湖周辺の活動場所を地図上に示し、コミュニケーションを円滑にしています。

バラトン湖の若者のコミュニティ作り/誰もが参加できるネットワーク

西バラトン湖ユースアソシエーション/
エクスタジーユース協会
ハンガリー

07

外来植物「オオバナミズキンバイ」を除去し、琵琶湖で培った活動を他地域へ広げています。

琵琶湖から日本、世界へ。大学生による地域と連携した侵略的外来水生植物除去活動

NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）
オオバナチーム
日本

08

琵琶湖の未利用魚を商品化するなど、高校生のアイデアを企業と形にしています。

高校生は、社会へ出る。 ～琵琶湖を通じた高校生の思いとその広がり～

立命館守山高校
日本

09

学校でのワークショップや湖の清掃活動を通じて自然との繋がりを深め、環境を大切にする意識を育んでいます。

気づきから主体的な行動へ ―市民科学と都市湖沼での活動を通じたクアラルンプールの若者のエンパワーメント―

プラネット・プロディジー
マレーシア

10

45年受け継がれてきた廃食油から石けんをつくる活動を通じ、環境を守る地域のつながりを次世代へつないでいます。

琵琶湖を守る「せっけん運動」の思いを次世代へ

NPO法人愛のまちエコ倶楽部
日本

11

ユース宣言・発表資料

ユース宣言を含めた各発表の概要と、発表資料は
https://ilec.or.jp/en/youth/#topics
をご覧ください。

レポート2

国連世界湖沼の日記念イベント
「持続可能な湖沼管理に向けた世界的協力の強化」

8月27日に、ニューヨークの国連本部で、UNEPが主催するハイレベルイベントが開催され、約70か国の国連代表部関係者をはじめ、国際機関、研究者、先住民、ユースなど、湖沼に関わる多様な関係者が集まりました。本イベントでは、廣木謙三ILEC理事が共催団体のひとつであるHELP（High-Level Experts and Leaders Panel on Water and Disasters）の代表としてパネルディスカッションの進行を務め、竹本和彦ILEC理事長が閉会の挨拶を行いました。会議では、湖沼を流域や周辺の生態系と一体的に捉え、科学的データに基づく管理を進めること、多様なステークホルダーの参画を促すことの重要性が共有されました。

湖沼をめぐる、世界の視点　　各国・国際機関・ユースからの共有

① 湖沼と流域を一体として捉える

河川や森林、農地、都市などを含む流域全体を守る重要性とともに、湖沼を地域のアイデンティティや歴史、自然遺産の一部として捉える視点も示されました。流域の保全や再森林化、汚染防止、衛生環境の改善に加え、環境保全を農業やエコツーリズム、教育、地域経済につなげる取組も紹介されました。

② 科学・データを政策と行動につなげる

湖沼の変化を正確に把握し、政策や保全対策に活かす重要性が強調されました。UNEPからは、衛星観測などを活用して湖沼や湿地の変化を把握する「Global Wetland Watch」が紹介されました。

③ 国際協力を具体的な取組につなげる

湖沼保全を実行に移すには、理念や知識の共有だけでなく、継続的な資金、技術、人材の確保が必要です。モニタリング、排水処理、生態系の再生、技術移転、能力開発など、具体的な取組を支える国際協力の重要性が示されました。

④ 多様な主体の参画を進める

政府や専門家だけでなく、地域社会、先住民、ユースなどが意思決定の段階から関わる重要性が示されました。地域に受け継がれてきた知識の尊重や、若者を現在の取組を担う主体として位置づける必要性も強調されました。

閉会あいさつ

竹本　和彦
ILEC理事長

湖沼が抱える課題は複雑であり、将来の世代にわたって持続可能な湖沼管理を実現するためには、科学的な知見や根拠に基づくとともに、科学、政策、そして多様なステークホルダーの視点や専門性を結びつけ、これらを基盤とした継続的な国際協力を進めていくことが不可欠です。

ILECは、世界湖沼会議（WLC）を通じて、各国の知識や経験を共有するとともに、湖沼問題をめぐる国際的な対話と協力を推進してきました。これまで培ってきた専門的な知見と国際的なネットワークを活かし、今後もUNEPをはじめとする国際機関や幅広い関係者と連携しながら、湖沼をめぐる制度的な枠組みの強化や、現場における具体的な取組の推進に貢献していきたいと考えています。

レポート3

ハンガリーのWLDイベントでの発信

第19回世界湖沼会議の開催地である、ハンガリーのバラトンフュレドにおいても9月８日に現地ホストによる世界湖沼の日（WLD）記念イベントが行われました。ILECの竹本理事長は、ハンガリーやEUの高官と共に招待され、ビデオメッセージで、「バラトン湖は湖沼管理の実践的な取組において長い歴史を持つ、世界で最も重要な湖の一つであり、WLD会議を開催するのにふさわしい場所。ここでの知識や提言の交換が、世界中の持続可能な湖沼管理の推進に役立つと確信している。」と述べました。

また、これに先駆けて8月27日に行われたイベントでも、ILECの中村正久科学アドバイザーが、琵琶湖とバラトン湖の比較を通して、世代を超えた湖との関わりについて発表しました。

レポート4

世界の湖をつなぐWLDオンラインイベント

8月27日のWLDにあわせ、北米、アフリカ、アジアなど世界各地の湖沼関係者の連携により、「Many Lakes, One Mission」をテーマとしたオンラインイベントが開催されました。

本イベントでは、各地域の湖沼保全やユース参画の取組が紹介され、ILEC科学委員長は、「Many Lakes, One Mission」は「Many Actors, One Mission」でもあると述べ、多様な主体がそれぞれの役割を活かしながら湖沼の持続可能な管理に取り組むことの重要性を強調しました。さらに、若い世代による湖沼保全への参画が広がっていることへの期待を示しました。

Save the Date

第21回世界湖沼会議
(Mwanza 2027)

主催｜ タンザニア連合国 水省 水研究所 / ILEC

会期
2027年8月4日（水）～7日（土）

開催場所
タンザニア・ムワンザ
マライカビーチリゾート

テーマ
私たちの湖、私たちの未来：
科学・政策・実践活動を通し、
水が安定して確保される世界へ

「世界湖沼の日」関連のイベント開催には近畿ろうきん様、関西みらい銀行様よりいただきました寄付を活用させていただきました。ありがとうございます。

INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION (ILEC)
－ 事務局 －
〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 公益財団法人 国際湖沼環境委員会
Tel: 077-568-4567 / Fax: 077-568-4568 / E-mail: infoilec@ilec.or.jp
Website: www.ilec.or.jp / Facebook: www.facebook.com/ilec.japanese